

浦安とみおか川柳会

六月例会結果

日時： 令和5年6月13日(火)
 出席者： 真田宣子、塩見和昭、谷口勝、長谷川智、藤三休、三浦みちえ、光永ひかる、森山裕子、山岸順、山口しだれ、山口昇柳

講師： 佐藤青樹

● 点数
 ● 講師 課題 「リラックス」互選 講評*佐藤青樹

8 深夜便昭和の歌を遠く聞く
 絵が見え、上手くできました
 みちえ

7 弱いとこ見せて心の鎧脱ぐ
 句意はよく分かりますが、絵が見えるともつとよくなる
 裕子

6 別室が何故か落着く倦怠期
 銚脱ぎ妻に甘える膝枕
 和昭

5 鉄瓶の音が嬉しい午後のお茶
 倦怠期なんてそんなものなのでしょうね
 みちえ

4 ハンモツクの中にわたしの城がある
 絵が見え、一読明快の句
 順

3 止まり木の酒に心を遊ばせる
 句意は分かりますが、もう少し情緒感を出し
 裕子

2 叱られぬ日がくれていく妻の留守
 止まり木へ女将が婀娜を酌に来る
 順

4 休日に孤独を楽しむ山歩き
 妻の留守はリラックスもするが、やがて暮れていくと寂しくなるのでは。また「くれていく」は「暮れていく」が情緒でる
 勝

3 孫の笑顔家の空気が入れ替わり
 絵が見える句。中八では。「に」は削り「野：の」に代える
 順

2 湯煙に心も溶ける雪見酒
 休日をひとり楽しむ山歩き
 勝

1 苛立ちをバラのお世話が和ませる
 絵が見え、一読明快の句
 しだれ

2 絵が見え、一読明快の句

2 おしどりの相手居ぬ間に伸ばす羽根
 句意は分かりますが、中七の「相手」に一工夫が欲しい
 和昭

1 旅疲れ我が家の風呂でリラックス
 おしどりの鬼の居ぬ間に伸ばす羽根
 裕子

2 ひざ枕かなわぬまでもお茶ひとつ
 絵が見え、一読明快の句
 和昭

1 削除キー押して心が凧になる
 膝枕がかなわぬのに、お茶でリラックスできる聖人の句？
 お姑の居ぬ間の妻の膝枕
 みちえ

2 ストレッチピタリと決まり新天地
 削除キーはどんなキーなおでしよう
 和昭

1 オミクロンワクチン接種ゆったりす
 ストレッチが効いて、楽しく活力が湧いてきたのでしようか
 和昭

2 歌疲れゆったり寝込みまた元気
 ワクチンを打って一日寝て暮らし
 和昭

1 ゴールデン一日乗車の山手線
 熱唱が見える。「また元気」が効いている。「ぐつすり」が良い
 和昭

2 朝のホームホット一息鳥の声
 連休を日長乗ってる山手線
 和昭

1 ワクチンでゆったり寝込み休養さ
 ラッシュアワーホームを癒す鳥の声
 和昭

2 スマフォの手巧みに操作高齢者
 ワクチンの呉れた休養よく寝込み
 和昭

1 君の名の悲恋に涙流れ出す
 スマホゲーム楽しむほどに老いが長け
 和昭

2 AIの将棋師範で伸び盛り
 「君の名は」選者によつては古臭いと取られる恐れある
 和昭

1

課題「よせばいいのに」二人選 森山裕子選

秀		客	
下し立てカレーうどんに裏切られ	みちえ	マネキンの服に手を焼く試着室	順
翌日は医者に行ってるスクワット	順	ボール蹴りジイが手本と足ひねる	和昭
麻雀でつきもないのにかけ続け	智	太平洋ひとり乗り出し救助隊	和昭
バブル期の妄想抜かずまた投資	しだれ	残り火を又焚きつけるお節介	みちえ
山菜を探して熊と鉢合わせ	みちえ	大穴を夢見て今日も競馬場	勝
防犯ヘシール貼り過ぎ狙われる	しだれ	大金の跡が見えない美容外科	順
		おせっかい過ぎてよしみガキシみ出す	和昭
		整形の顔は嫌いと彼は去り	
		踏み違い悔やむ高齢ドライバー	
		堅物に突き返される茶封筒	

課題「よせばいいのに」二人選 山口昇柳選

秀		客	
下し立てカレーうどんに裏切られ	みちえ	山菜を探して熊と鉢合わせ	みちえ
翌日は医者に行ってるスクワット	順	大穴を夢見て今日も競馬場	勝
おせっかい過ぎてよしみガキシみ出す	和昭	踏み違い悔やむ高齢ドライバー	裕子
太平洋ひとり乗り出し救助隊	和昭	堅物に突き返される茶封筒	裕子
好きな子に強く投げた雪合戦	三休	マネキンの服に手を焼く試着室	順
残り火を又焚きつけるお節介	みちえ	整形の顔は嫌いと彼は去り	裕子
		大金の跡が見えない美容外科	順
		うつつ捨ててすっかり今日を生き	
		手術無く大病院を追い出され	
		元気なの裏声出来て生き背く	

自由吟 山岸 順選

秀		客	
鏡見て口角上げて脱マスク	みちえ		
雨音に負けじとカラス声上げる	宣子		
売り物にならぬ宝を持て余す	裕子		
アラートは後から鳴っても意味がない	三休		
星占いさそり坐一位笑う君	宣子		
梅雨晴れ間庭のあじさい背伸びする	ひかる		
鏡の中母に似てきた顔の皺	宣子		

例会のお知らせ	日時	令和5年9月12日(火) 8月は休み 13:00~16:00	「犬吠」六月号 掲載会員句	すべてのもの縁に染める五月晴れ(宣子)
	場所	富岡公民館		味よりも初物選ぶ好奇心(しだれ)
	課題	「生まれる」互選 :3句		茶寿の母よく食べ歩き天国へ(昇柳)
		「壁」二人選 :3句		アメリカで野球の極意見せてやり(和昭)
		自由吟 :3句		雑踏の銀座に紛れ増す孤独(裕子)
	浦安川柳大会の案内 7月16日(日)			コロナ明け地球を廻るパスポート(順)
				卒寿過ぎ喜寿を迎えた妻介護(勝)
				タンポポの綿毛に暫し身を委ね(みちえ)

川柳いろいろ

没句

一人選（よせばいいのに）
 三年目東大受験また落ちた
 国債を頼りに赤字先送り
 考古学家まで売って没入す
 親子乗り子供ヘルありママ未だ
 上機嫌に生き楽しくなるよせよ
 カラオケの音を最大しびれ顔
 軟水が体しつかり謝すよせよ
 腸が変われば病気が逃げるよせよ

自由吟

買得の野菜消費に四苦八苦
 触れ合いのチャンスアプリがプロデュース
 荒れた山残して父は遠に亡く
 胸襟の腹にイチモツGセブン
 順さんが台風蹴とばし川柳会
 藤井七段若さ光るし驕らない
 メモ書きの角におやつと孫の文字
 面白く汚点残した総理秘書
 終活の片付け過ぎへ味気なさ
 ドローンの操作を学ぶカメラマン
 ボンボンは社会に出てて何してた
 今時は患者を診ずに画面見る
 欲しいな老いに止めを刺す薬
 ドクダミの白の十字にかしこまる

川柳の理論と実践

新家完司

さまざまな比喩

言葉を効果的に用いる技術を修辞（レトリック）という。その一つに比喩があります。

・直喩（明喩）

「：のように」「：のごと」「あたかも」などの言葉を用いて喩えるものと、喩えられないものを結ぶ方法
 薔薇のような頬 鋼鉄の如き意志 氷のような刃

しかし、作品に使用しても印象的な効果は望めない

・よもぎパンみたいに山が膨らむよ

・窓開けるようにテレビをつけに行く

・焼香のように胡麻塩振り掛ける

実感から生まれた比喩ですから「なるほど」と納得させる力を持っています。

・隠喩（暗喩メタファー）
 直喩から「ような」「ごとし」という言葉を隠したもの
 薔薇の頬 鋼鉄の意思 氷の刃

人生は旅だ 彼は鬼だ

やはりこのように見慣れたものは陳腐に感じますから
 安易に使用しない方がいいでしょう

・一族は口の開かぬビスタチオ

・汗かいて体の膿をしぼり出す

・独創的なおもしろさがあります。比喩が大胆でユニーク

・活喩（擬人法 擬物法）
 擬人法は「人間でないものを人間のように表現する」こと
 擬物法は「人間を人間でないものに置き換える」こと

海が怒る 山が招く 花が笑う 鳥が歌う

生き字引 我が家の大黒柱 杓子定規な人

日本には擬人化した慣用語がたくさんあります。
 草花や動物が語りかけてくるものを受け止め、彼らの
 代弁者となるのも川柳作家の役目の一つです。

・竹の子が食べて食べてとのびている
 ・やがてこうなると枯葉舞い落ちる
 ・死んでたまるか泳ぎ続けているイワシ
 ・靖国に参るペンギンの列
 ・こっそりと辞書を調べる生き字引

鑑賞 犬吠 令和三年七号より

フラワーライン

・千紫万紅より

勝ちよりも大事なことを負けて知る 岩間直美
 たとえ過疎でも健在の仁王門 太田 九
 長所にも短所にもなる几帳面 仁科雪乃
 当たらない人が支える宝くじ 長谷川庄二郎
 満開の桜素直になれそうな 阿部ふき子
 学舎に反省しきり古希の春 福家昭恵
 平凡な人生だけど夢は有り 石井隆子
 高望みせずに私の生きる場所 古藤 芳
 陽だまりにコロナ禍知らぬ子猫たち 和田寿一
 しっかりととうっかり支え合う夫婦 大矢 敦

・黒潮集より

焦るなと明日を咲かせる花の色 藤井敏江
 永田町身内の錆びがこびりつく 宮永紀久子
 道草で探す自由の風のうた 根岸ムベ
 不要不急の外出をする散歩道 藤田 悠
 心にも一輪ほどの温かさ 高田文字

金波銀波（各地句会報）より

身の底に種火を残し明日を待つ 松本隆子
 どん底を踏ん張ってきて今の幸 吉野千枝子
 廃線の駅舎活かして町興し 岩瀬定男
 何度でも懲りずに挑むダイエツト 伊藤良江
 意地悪をされてたころが花だった 山崎真理
 魂に響く言葉で卒祝い 門真香津子
 痛いのは飛んでいけ母の魔法の手 横山よし子
 感性の桜恋して万歩計 小林きらら
 死にたいと言いつつ今日も医者通い 白土佳奈
 ワクチンが主役になって行くニュース林 博之
 自粛して去ってしまったこの2年 関屋玲子
 袖口が触れた湯飲みが作る海 池田文字
 一つずつ扉開けた来た老いの国 増川みずえ
 子守歌うたえばいつも母がいる 草野春菊

互選句 課題「カラー」

令和五年

七月例会

浦安とみおか川柳会

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
がんこ親父自分の色を押しつける	黒マスクサングラスでの怖い顔	カラフルな羽のダンスでプロポーズ	瑠璃色の地球を汚す一欠片	年度末カラーコーンが立ち並ぶ	色によりもう着れないと捨てるシャツ	二色化へ世界傾き溝深く	口げんか今日は白紙の日記帳	女房の厚化粧に犬が吠え	クラス会今日の気分はこのルージユ	ワンマンのカラーに染まるイエスマン	白髪染め妻の拝借OB会	三原色ひとつ欠けても彩なさず	美しく日本を染める四季の色	ノノクロの顔にうつすら紅をさす	ワイシャツの衿にノリ付け笑う母	無色の日真つ赤な夕日目覚めさす	色褪せた地図が迎える過疎の村
36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19
				花ピラが髪に舞い降り美女の絵に	白黒の写真心の色を塗る	自叙伝を好きなカラーで染め上げる	マスクとり口紅求め色試し	校風は卒業生の置き土産	青空へヒマワリ咲けと世の祈り	クールビズ妻が選んだカラーシャツ	バラよりもカラーが似合う君がいる	さくらんぼうの赤で決まったお弁当	もう金婚あの白無垢は何色に	剥げ頭タオルを滑らせピツカピカ	旧来の黒いまわしが良く目立つ	金髪に染めて弱気の虫隠す	